

かとう ともあき  
加藤 友章さん

JICA 海外協力隊 2018 年度 1 次隊

派遣国：ラオス 職種：コミュニティ開発

2022 年 2 月 13 日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## 強い思い 生産者の力に

JICA 海外協力隊として活動していたラオスから帰国して、もうすぐ 2 年がたつ。現在は、会社員として働く傍ら、活動で出会った手工芸品の生産者の製品を日本に届けるため、同時期に活動していた元協力隊員の妻とともに「siimee(シーミー)」というブランドを立ち上げて活動をしている。

2018 年 7 月、ラオスに赴任した。北部サイニャブリ県で「コミュニティ開発」の職種として、手工芸品の製品開発と販路拡大に取り組んだ。主に私がサポートしていたのは、ラオスの伝統産業である織物の生産者である。

赴任当初は織物に関する知識も乏しく、生産者から全く頼りにされなかった。それでも、「自分に何ができるか」と自問し、前職が海外営業職だったことを活かし、国外への販売サポートに奮闘した。その結果、約 1 年後には国外との取引を進めることができた。その頃から、生産者とお互いの思いや考えをぶつけ合えるような信頼関係を築くことができるようになった。

帰国から 1 年後の 21 年 3 月、より大きな規模で生産者をサポートし続けたいと考え、「siimee」ブランドを立ち上げた。現在はイベントに出展したり、ギャラリーを借りてポップアップショップを企画したりして、販売活動を行っている。まだまだブランド運営に必要な知識も経験も足りていない。それでも協力隊活動と同じように思いを強く持って行動すれば、必ず生産者の力になれると信じている。



サイニャブリ県の定期市で織物を販売する生産者たち